

学校法人 仙台育英学園 秀光中等教育学校

二〇一七年度 東京選抜試験

# 国語

(第一問～第三問)

注意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙を開かないこと。
- ・この問題冊子は十三ページあります。
- ・答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 日本人は自然を尊び愛する気持ちが強い、とよくいわれます。ところが、その自然とは何かをつきつめて考えると、自然をめぐるその心は、一定の生物種や美的に重要な自然界の個々の対象に焦点を合わせたものなのです。固有の価値をもつすべての自然を平等にあつかうという、人間中心的な環境理論に対抗する<sup>注1</sup>ディープ・エコロジー的な発想からの自然の賞賛とはかなり異質のものです。

春のお花見にしても、サクラの咲く公園や堤の全体が春らしくなってくるのを楽しむのではなく、サクラの花だけが観賞の対象ですね。歌川広重の『東都上野花見之図』でも、サクラ以外に識別できる植物はアカマツらしき木があるだけで、あとは背景としての緑が描かれているにすぎません。川堤の花見の席のまわりには、スマレやイヌノフグリやトキワハゼのかわいい花たちが早春を謳歌<sup>a</sup>しているはずですが、Aが詠んだ「鼻紙を敷て居れば董哉」の気づかいで、まわりの多様な野草たちが演出している春まで楽しむことのできる現代の市民は、どれほどいるのでしょうか。サクラ公園やサクラ並木をつくるように、シバザクラやチューリップやパンジーを大規模に植えて、それだけを楽しむわけです。

在来の野草を楽しむ場合も、同じ傾向がみられます。京都・廬山寺のキキョウの写真を見るかぎり、庭にはキキョウとコケしか生えていないようです。半自然の草原に咲くキ

キョウだけがIされたものであり、草原で主役になっているはずのススキやチガヤの姿は見あたりません。野草の多様性を楽しむための寄せ植えでさえ、それによって利益を得るといふ発想では、人目を引きそうな草花だけを選んで植えたくなるのです。

<sup>注2</sup> モンsoon気候帯に位置する日本は、四季折々の美しい自然と接することができる反面、台風に代表される暴力としての自然が襲いかかってくる。日本人はたえず自然の脅威にさらされていますが、それを克服することはできず、耐え忍んできたので、自然を神として崇拝せずにはいられなかったのです。だからといって、自然の全体を神聖視していたわけではありません。

古代日本人の自然崇拜は、稲作を中心に年々くりかえされる営みの中で、村人たちの守り神として祭られた自然の中になりました。そこでは影響力の大きかった祖先を神としてあがめただけでなく、米つくりをする農民の生活に強くかわる雨、雷、台風などの自然現象や、たたりを恐れた蛇、狼、猿や神霊が宿ると考えた大木、奇岩までもが祈りの対象となりました。八百万の神といわれるくらい多くの神様が、日本人が古くから信仰してきた神道にはいたのです。

神は、祭りのあいだだけ天から降りてきて、祭りが終わればまた本来のすまいに帰っていくと信じられていました。そこで、神が降り立つための目印となる奇岩や大木のある場所に神殿を建て、神の社すなわち神社ができたのです。奈良・

三輪山みわやまの大神神社おほみわのように山が御神体ごしんたいのところもありますが、一般に神殿周辺の木立までが神聖な場所となり、みだりに入ったり、人の手を加えてはならない鎮守ちんじゅの杜もりになったのです。

いまでも日本全国には神社庁に登録された約八万五〇〇〇社の神社があり、そのほとんどに森や大木があります。自然崇拜と人格のある神を通しての祖先崇拜にもとづく日本固有の信仰である神道の心は、明治のはじめから第二次世界大戦が終わった翌年の一九四六年まで、国家の保護のもと全国の神社を通してⅡしていったのです。鎮守の杜と一体化した里地と里山が近代日本人のⅢであったわけです。

日本でも日露戦争以降、明治も後半を過ぎると、重工業の発達による都市近郊の自然破壊はかいが各地ですすんだのを背景に、ドイツの天然記念物保護運動の影響えいぎょうを強く受けた三好学博士の発案で、史跡名勝天然記念物保存協会がⅣしました。協会を中心に検討を重ねてきた「史跡名勝天然記念物保存法」が公布されたのは、一九一九年のことです。

二〇一〇年二月現在、国の天然記念物は九八〇件ありますが、三好博士には郷土愛のシンボルとしての巨樹きよじゆや名木を保存する考えが強かったため、秋田県角館かくのたかのシダレザクラ、千葉県清澄山きよすみやまの大スギ、東京都なら練馬白山神社はくさんの大ケヤキ、港区元麻布もとあざぶにある善福寺のイチヨウ、御岳山みたけさんの神代ケヤキなど、名木、巨樹、老樹といわれるものが数多く含まれるとい

う特徴とくちゆうがあります。鶴岡八幡宮つるがきはちまんぐうの大イチョウは国の天然記念物ではありませんが、いまでも大イチョウという特定の生物に対する日本人の思い入れが強いのは、そこに神が宿っていると考えたくなるからでしょう。日本人に特有の自然崇拜とか自然を愛する心からはじまった生物の保護は、生態学の視点からの生物多様性（種の多様性）保全の考え方とはかなりかけはなれているだけでなく、先入観なしに、まずはすべての種を平等にあつかうというアプローチをしにくいものになっているのです。

日本には約五五〇〇種もの高等植物（シダ植物、裸子植物、被子植物からなる維管束植物をさす）が分布しています。しかし、日本人は特定の植物種や個体に対する関心が強いあまり、逆に緑とか草とか雑草として認識されてしまったら最後、その植物は多様性の要素になりにくいという面があります。一度、雑草のグループに属することにでもなれば、在来種であっても、ほとんど考えることなく排除の対象にさえなるのです。ではどうすれば、日本の在来植物の多様性をとりもどすことができるのか。私は、個々の人間に固有の「環境世界」を拡大する可能性を大きくもつ、若いみなさんのパワーに期待せずにはいられないのです。

（根本正之「日本らしい自然と多様性」  
——身近な環境から考える）

（答えはすべて解答用紙に記入しなさい）

注1 ディープ・エコロジー……すべての生命は人間と同じ価値を

持つので、人間が他の生命の存在をおびやかすことは許されないという考え方。

注2 モンスーン気候帯……季節によって風の吹く方向が変わる地域。

注3 御神体……神様が宿ると考えられているもの。

注4 鎮守の杜……その土地を守る神をまつた神社を取り囲む森で、神聖な場所と考えられている。

問一 線 a 「謳歌している」、b 「人目を引きそう

な」c 「克服する」の意味として最もふさわしいものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 「謳歌している」

- ア いっぱいに咲き誇っている  
イ 精一杯に力強く生きている  
ウ 幸せな状況を楽しんでいる  
エ 軽やかな気分になっている

b 「人目を

引きそうな」

- ア 行き過ぎで目立つような  
イ 見られないような  
ウ 他人の注意をひくような  
エ 全体を見渡すような

c 「克服する」

- ア 自然の力に対抗する  
イ 恐怖心を捨てる  
ウ 上からかぶせる  
エ 負けずに乗り越える

問二

□ Aにはいる江戸後期の作者として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 井原西鶴      イ 近松門左衛門  
ウ 小林一茶      エ 松尾芭蕉

問三

線①「日本人は自然を尊び愛する気持ちが強い」とありますが、日本人が愛している「自然」とはどのようなものですか。本文にある言葉を用いて説明しなさい。

問四

線②「自然の全体を神聖視していたわけではありません」とありますが、日本人が神聖視していたものの一例としてふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 日本は山々が重なり人々がその深い山や大木に恐れを抱いていたために、それらのものを崇拜した。  
イ 日本は自然災害が多く、それに耐えなければならず、命の危険を感じるものだけを崇拜した。

ウ 日本は入り組んだ複雑な地形になっていて、そこから生まれた巨岩・奇岩などを崇拜した。

エ 日本は稲作中心の生活を築いてきて、自然がその生活を左右するので、稲作に関わる自然を崇拜した。

問五 本文中の  I～IV に当てはまる言葉として最も

ふさわしいものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 浸透しんとう      イ 撤廃てつぱい      ウ 故郷  
オ 発見      カ 発足      キ 抽出ちゅうしゅつ      エ 原風景

問六 線③ 「三好博士には郷土愛のシンボルとしての

巨樹や名木を保存する考えが強かった」とありますが、このような考えを持ったのはなぜですか。その説明として次の文の空欄に本文中から十六字で書き抜きなさい。

日本人に  があったから。

問七 線④ 「個々の人間に固有の『環境世界』を拡大

する」ために、どのようなことが必要だと筆者は考えていますか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 日本人は特に目を引く草花を楽しみそれ以外の野草は注目しない傾向があるが、小さな草花にも風情ふぜいを感じる心を養うこと。

イ 日本人は自然を愛する気持ちが強く外来種までも受け入れていく傾向が強いが、日本古来の植物を守っていく意識を持つこと。

ウ 日本人は工業の発展により植物を軽視する傾向があるが、自然との共生によって工業も成り立つことを理解すること。

エ 日本人は決まりきった草花を愛好する傾向があるが、それ以外の植物にもかけがえのない生命として排除せずに目を向けていくこと。

## 第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

転校生の「少年」は転校したばかりのある日の放課後、神社で「おっちゃん」と出会い親しくなっていく。そして「少年」はクラス対抗のソフトボール大会に出場したときに、ホームランを打ち、学校の野球チームの仲間入りをすることになった。

少年はクラスの野球チームで四番を任された。ショートのポジションは奪<sup>うば</sup>えなかったが、サードになった。いったん仲良くなってみると、クラスの男子は、なかなかいい奴がそろっていた。言葉がつかえたときに笑われると喧嘩<sup>けんか</sup>になる。でも、なんとなく仲直りする。来年は、このクラスのまま持ち上がりで六年生に進級する。野球の練習帰りに、みんなが五月の修学旅行の話をすることもある。

おっちゃんのことを、少年は少しずつ忘れていった。

十二月になって、通学路にある木の枝にミノムシが下がっているのを何度も見かけた。霜<sup>しも</sup>がおりて、みぞれが降って、水たまりに氷が張った。

終業式が近づいた頃、珍しく夕食前に帰宅した父親が、これも珍しい<sup>①</sup>上機嫌<sup>じょうきげん</sup>な顔で「冬休みに引っ越しじゃ」と言った。転校ではなかった。同じ学区内に新しい借家が見つかったのだという。トイレは変わらず汲み取り式だったが、風呂はガスだった。本社の会議で支店がなくなることが決まっ

て、それならこの町に腰<sup>こし</sup>を据<sup>す</sup>えて暮らしたいから、と父親が支店長に頼み込んで引っ越し先を探してもらったのだ。

「まあ、腰<sup>②</sup>を据<sup>す</sup>えるいうても、いつ転勤になるかわからんのじゃけど……」

苦笑する父親に、母親は「ほんま、落ち着かんよねえ」と笑い返した。家で母親の方言を聞くのは初めてだった。

<sup>注</sup>1 なつみは、新しい家に友だちを招<sup>よ</sup>んで引っ越しパーティーをするんだと張り切って、さっそく招待状をつくりはじめた。引っ越し先はいまの家とは学校を挟<sup>はさ</sup>んで反対側だった。学校にはだいぶ近くなる。放課後の野球の練習も一番乗りできるだろう。でも、もう、この近所に来ることはめったにないだろう。

<sup>③</sup>最後に一度だけ、神社に行ってみよう——と決めた。

年が明けた。前の町の友だちからの年賀状は、少年が出した数よりずっと少なかった。その代わり、新しい学校の友だちは予想以上にたくさん年賀状をくれた。へ今年もよろしく——どうってことのないあいさつなのに、読んでいると、背中が **A** になってしまう。

引っ越しの前日、歯医者に行くからと嘘<sup>うそ</sup>をついて野球の練習を休み、自転車をとばして神社に向かった。

あれから一カ月半もたっているのに、四つ角をいくつか曲がるうちに、つい昨日も同じ道を通ったような気がしてきた。もしもおっちゃんに会ったら「なににして遊ぶ？」と軽く言え

るんじゃないか、とも思った。

おっちゃんは怒るだろうか。そんなことないよな、と思う。おっちゃんはいつだって酔っぱらっていて、おっかない声でうれしそうに笑って、どんぐりのことをたくさん教えてくれて、野球の相手をしてくれて、「どどをくつても、ええやんけ」と言ってくれて……。

神社の前に自転車を止めると、

**B** で鳥居をくぐった。

おっちゃんはいなかった。

あたりまえだよな、と少年は弾む息をこらえながら苦笑いを浮かべ、鳥居の下の石段に腰かけた。

もう呼吸は整ったのに、息苦しい。自然と顔がうつむいてしまう。

足元に、殻のとれたどんぐりが落ちていた。おっちゃんといっしょに選り分けたどんぐりなのか、関係ないのか、わからない。ただ、この形はクヌギだ。コナラやシイと間違えることはない。これからもずっと。

少年はうつむいたまま、胸を両手で抱きかかえた。おっちゃんに会えたら、話したいことがたくさんあった。④最初に伝える言葉と、最後に口にする言葉は、もう決めていた。

でも、おっちゃんは姿を見せなかった。

いつまで待っても、おっちゃんは来てくれなかった。

あたりが薄暗くなった頃、少年は **C** 立ち上がった。

雑木林に入って、降り積もった落ち葉を手で払い、コナラ

の実を一つ拾う。泥をジャンパーの袖で拭い、虫に食われていないのを確かめてから、ズボンのポケットに入れた。

自転車にまたがった。家に帰る五時までには、まだ少し時間がある。ペダルを踏み込んだ。サドルからお尻を浮かせ、ハンドドルを強く握りしめて、海に向かった。

初めての道だったが、一本道だ、迷いはしない。向かい風を浴びて走った。途中で舗装が途切れた。でこぼこした砂利道をせいっぱいのスピードで駆け抜けた。おっちゃんが二人乗りが上手かった頃は、いつなんだろう。子どもの頃の話だったのか。それとも、おとなになってから、なのか。おっちゃんの後ろに座っていた子は、いま、どこにいるんだろう。やがて、地響きのような低い音が聞こえてきた。波の音だ。海から吹いてくる北風が、いっそう強くなった。冬の日本海はいつも時化している。⑤終業式の日も、先生は「子どもだけで海には行かないように」と言っていた。

松林に入った。道が途切れ、枯れた松葉がじゅうたんみたいに積もった中を進んだ。陽が落ちかけた空は松林の梢に隠されて、あたりは急に暗くなった。ライトを点けると、自転車のペダルが急に重くなった。風が、ごうごう、と音をたてる。松林の梢が揺れて葉が触れ合う音は、まるで土砂降りの雨の音のようだ。

**I** が痛くなった。ハンドドルを握る **II** もかじかんで力が入らなくなった。松の木の根っこが地面のあちこち

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

に出ていて、ハンドルを取られそうになる。松葉がタイヤを滑らせる。

Ⅲ がピリピリする。風に乗って砂が吹きつけてくるのだ。冷たい飛沫も

Ⅳ の先が寒さで、じん、と痺れた。空はもうほとんど闇になって

いた。怖い。寒い。全身が痛い。泣きそうになった。

注6 「ええやんけえは、ええやんけえ、えーやんけーえっ！」

自転車漕ぎながら怒鳴った。おっちゃんの歌った節回し

は覚えていない。でも、おっちゃんの歌だ。おっちゃんがつ

くってくれた歌だ。

歌のあと、神社で言えなかった二つの言葉を順に、もっと

大きな声で言ってみた。

いつもはうまく言えない「ゴ」も、怒鳴ればだいじょうぶ。

「サ」は、いつも得意だ。

松林を抜けた。海岸に出た。海沿いの道路とガードレール

代わりの背の低い防波堤——その先に砂浜と、海がある。

自転車を止めた。防波堤を乗り越えて、砂浜に降りた。波

が白く逆立っていた。浜に打ち寄せた波は白いとところがいつ

ぺんに広がり、すぐにまた、ゴムかバネで引っ張られるよう

に戻っていく。ときどき大きな波が来るが、気をつければ、

ぎりぎりまで行けないことはない。沖のほうは雲が垂れ込め

ていたが、ほんのわずかだけ陽が残った空を見上げると、星

が瞬いていた。

ズボンのポケットからどんぐりを出した。右手に握って、

海に向かって走る。

波打ち際に近づいた。うまいぐあいに風が少し弱くなった。三塁線のゴロをナイスキャッチ、一塁に向かって矢のような送球——のつもりで、どんぐりを海に放った。

遠くに飛んでいけ、と願った。

遠くに、遠くに、飛んでいけ、と祈った。

小さな軽いどんぐりは、手から離れるとすぐに風にあおら

れて、横に飛んでしまった。でも、砂浜に落ちたあとも、ど

んぐりは風に吹かれるまま転がっていき、波打ち際の斜面に、

ころん、と落ちた。

注7 大きな波が打ち寄せて、どんぐりを呑み込んだ。

波が引いたときには、どんぐりの姿は、もう消えていた。

(重松 清「きよしこ」どんぐりのココロ)

注1 なつみ……少年の妹のこと。

注2 「どどをくっても、ええやんけ」……方言で「どもってもよ

いではないか。」の意味。

注3 鳥居……神社の入り口にある門のこと。

注4 舗装……道路の表面をアスファルトなどで固めること。

注5 時化……風や雨で、海が荒れること。

注6 「ええやんけえは、ええやんけえ、えーやんけーえっ！」

……方言で「どうでもよいことは、それでよいでは

ないか。」の意味。

ないか。」の意味。

注7 節回し……歌などの節の調子や、上げ下げのこと。



問一 線①「上機嫌な顔」、②「腰を据える」

⑥「星が瞬いて」の本文中での意味として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

① 上機嫌な顔

- ア よろこんだ顔
- イ 好き嫌いのない顔
- エ 気分の悪い顔
- ウ たいそうよい気分の顔

② 腰を据える

- ア それとなく住みつく
- イ すっかり落ち着く
- ウ なんとなく生活する
- エ ゆったりとかまえる

⑥ 星が瞬いて

- ア 星がかすんだり消えたりして
- イ 星が雲の中にかくれてしまつて
- ウ 星がちらちら輝かがやいて
- エ 星が大空いっぱい光り続けて

問二  A、Cに入れるのに最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

の

- |   |   |        |   |        |
|---|---|--------|---|--------|
| A | ア | すずしく   | イ | おもたく   |
|   | ウ | あったかく  | エ | くすぐったく |
| C | ア | たちどころに | イ | そのまま   |
|   | ウ | ゆっくりと  | エ | すんなりと  |

問三  Bに入れる四字熟語で最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

次の

- ア 全力疾走
- イ 以心伝心
- ウ 絶体絶命
- エ 五里霧中

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

問四 ———— 線③「最後に一度だけ、神社に行ってみよう——

と決めた。」とありますが、なぜですか。その理由として、最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 少年は引っ越し前に、久しぶりにおっちゃんに会って今の自分を話そうと思ったから。

イ 少年は引っ越し前に、おっちゃんと遊んだ神社をしっかりと見えておきたいと思ったから。

ウ 少年は引っ越し前に、おっちゃんと最後に一度だけでも遊びたいと思ったから。

エ 少年は引っ越し前に、おっちゃんに会ってクラスの子を自慢したいと思ったから。

問五 ———— 線④「最初に伝える言葉と、最後に口にする言

葉は、もう決めていた。」とありますが、「少年」は「おっちゃん」にどのような言葉を考えていたのですか。本文中にある「いつもはうまく言えない『ゴ』も、怒鳴ればだいたいようぶ。『サ』は、いつも得意だ。」という部分を読み取って、のつく言葉、のつく言葉をそれぞれひらがなで答えなさい。

問六 ———— 線⑤「終業式の日も、先生は『子どもだけで海

には行かないように』と言っていた。」とありますが、それなのに少年はなぜ海に向かったのですか。その理由として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 少年は帰宅する五時まで少し時間があり、この機会に海を見ておきたいと思ったから。

イ 少年はおっちゃんから教えてもらった歌を、海の前で大声で歌おうと思ったから。

ウ 少年はおっちゃんから教えてもらった海に通じる道を、自分で確かめたかったから。

エ 少年はおっちゃんに今日言えなかった言葉を、海で心の底から口にしたかったから。

問七  I～IVに入れるのに最もふさわしいものを次のア～コから選び、記号で答えなさい。

ア 人    イ 手    ウ 鼻    エ 首  
オ 脚    カ 爪    キ 腕    ク 頬ほお

問八

——線⑦「大きな波が打ち寄せて、どんぐりを呑み込んだ。波が引いたときには、どんぐりの姿は、もう消えていた。」とありますが、そのときの少年の気持ちとして最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア おっちゃんが自分と親しく遊んでくれたことを、今日ですべて忘れたい気持ち。

イ おっちゃんが自分と遊んでくれたことを、新しい友人達には隠かくしたい気持ち。

ウ おっちゃんが自分と遊んでくれたことに感謝し、思い出として区切りをつける気持ち。

エ おっちゃんが自分と親しく遊んでくれたことを、今考えるととても恥はずかしいという気持ち。

問九

この文章についての表現上の説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 海岸の描写を中心に体言止めを用いている。

イ 海岸の描写を中心に比喩ひゆを用いている。

ウ 海岸の描写を中心に倒置法を用いている。

エ 海岸の描写を中心に方言を用いている。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

注1 ぜん 禅には「本来無一物」という言葉がある。事物は全て空注2 くう であるから執着すべきものはない。茶道の精神にも通じる。茶道家の山崎仙狭さんはトラック四台分の持ち物を処分し、広い一軒家から2LDKのマンションへ転居した。ゲツカ注3 ンシ「日経おとなのOFF」で紹介されていた。

転機は東日本大震災だ。人の営みが一瞬にして奪われた。「本来無一物」の意味を痛感したという。「余計なものが周りにないほうが時を大切に過ごせる」

A のものしか持たない人が増えているらしい。「ミニマリスト」と呼ばれる。昨年の新語・流行語大賞の候補にもなった。とりわけ若い世代に多い。右肩下りの経済しか知らずに育ったからか。「車？ 家？ 欲しくない」という声をよく聞く。

経済成長を重視する立場から見れば社会の停滞だろう。だが見方を変えれば成熟に向かっている気もする。企業の景況感注4 げんきょうかんは悪化し、アベノミクスに陰りが見える。ショウヒ注5 しょうひ拡大が社会を豊かにするという発想は行き詰ってはいないか。

ネット上でミニマリストのさきがけと言われているのは随筆「方丈記」を書いた平安・鎌倉期の文人、鴨長明だ。大地震や凶作を経験し、庵を結ぶ。広さはかつて住んだ屋敷の一〇〇分の一ほど。四方が一丈、約三メートルの部屋なので方丈と名付けた。世の無常を主題にした作品は今も人の心を

引きつける。

注5 せかいで一番貧しい大統領」と呼ばれ、現在来日中のムヒカ・ウルグアイ前大統領も公邸に住まず質素に生活した。国内外で共感が広がる。幸福は経済シヒョウ注6 せいぎょうしひョウだけではハカれない。B を超えた「方丈」の暮らしは教えてくれる。

(毎日新聞「余録」二〇一六年四月一〇日)

注1 ぜん …… 仏教の修行の一つ。

注2 空 …… この世の全てのもは仮の姿だという仏教の考え方。

注3 景況感 …… 景気の状態のとらえ方。

注4 アベノミクス …… 二〇一二年十二月に誕生した安倍晋三内閣の経済政策。

注5 庵 …… 小さい簡単な住居。

注6 無常 …… すべてのものは、はかなく一定のままではないということ。

問一 〜〜〜線 a ～ e のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

- a ゲツカンシ      b 痛感      c ショウヒ  
d シヒョウ      e ハカれない

問二  A に当てはまる語を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 本来無一物      イ 格安中古品  
ウ 必要最低限      エ 国外生産品

問三 〜〜〜線①「補」の総画数は何画ですか。またこの字の太字の部分は何画目ですか。それぞれ漢数字で答えなさい。

補

問四 〜〜〜線②「陰りが見える」とありますが、これと同じ意味で使われる表現を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おとろえが表れる  
イ 失敗が明らかである  
ウ 栄えはじめている  
エ 変化が無くなる

問五 〜〜〜線③「さきがけ」とありますが、これと同じ意味で使われる表現を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 周囲に広めた人  
イ 高く評価された人  
ウ 元祖となる人  
エ 影響力のある人

問六 〜〜〜線④「主題」とありますが、これと同じ意味で使われている語を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア メイン      イ ムード  
ウ イメージ      エ テーマ

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

問七 ———線⑤「世界で一番貧しい大統領」とありますが、

なぜこのように呼ばれたのですか。その理由を説明した次の文の空欄にふさわしい語句を文中から八字以内で書き抜きなさい。

ムヒカ・ウルグアイ前大統領は、ぜいたくをせず、

から

問八  Bに当てはまる語句を次のア～エから一つ選

び、記号で答えなさい。

- ア 身分や職業
- イ 時代や国境
- ウ 政治や経済
- エ 年齢や性別

問九 この文章で筆者が述べている内容として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

いものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 本来無一物という言葉にこだわり、茶道の精神に反して一切の持ち物を処分した茶道家が紹介されている。

イ 本来無一物という言葉が知らなくても若い世代はものを欲しがらないため、経済が落ちこみ社会は成熟しない。

ウ 本来無一物という言葉は、経済成長を重視する立場からすれば社会の停滞を解決するのに大事な意味をもつ。

エ 本来無一物という言葉を感じとり、ものに執着することなく生活する姿勢は心の豊かさに必要なことである。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)